



妻西中キャラ めにしちゃん

学び磨き鍛える

正しい判断力とたくましい実践力を
もった妻沼西中生を育む学校

発行 熊谷市立妻沼西中学校
電話 048(588)1361
FAX 048(589)0496
令和8年3月5日
第28号

『聖天さまの彫刻にみる子どもたちの遊びの風景』

校長 清水利浩

国宝に指定されている本殿「歓喜院聖天堂」は、金色や朱色で彩られ、さらに極彩色の精緻な彫刻が飾られています。

『市報くまがや』の2026年1月号は、聖天さまの彫刻の中から、3人の子供たちと馬のおもちゃの乗り物にまたがっている様子が取り上げられました。今年は、午年（うまどし）ということ取り上げられたのでしょう。

この彫刻は、『竹馬遊三人、桜に蘇鉄（そてつ）』または『唐子三人竹馬遊び』という名前がつけられています。この名称から、この馬のおもちゃは、「竹馬」と呼ぶようです。私たちがイメージする「竹馬」とは少し異なりますね。馬の頭を先端に付けた竹の棒にまたがって遊ぶ子どもたち。竹の棒の後ろに



は、車輪のようなものがついています。「串馬」や「春駒」ともいうそうです。

馬は、農耕馬として人々に身近な存在でした。また、神の使いとしても大切にされてきました。竹馬遊びは、子どもたちの無病息災で成長することや疫病退散を祈願しました。

聖天さまの院家さまは、次のように語っています。「日本の名高い国宝建築の多くは、その時代の権力者によって建てられたものが多いが、現在の聖天堂の建物は、庶民の浄財（寄付のこと）のみで建てられました。当時、この地域の人々は、ほとんどが貧しい農民です。川の氾濫などの災害で大変な思いをしながらも親子、孫と、二代、三代にわたり、皆で協力して工事費用を約50年にわたり出し続け、この壮麗な建築が生まれたのです。歓喜院が人々の心の拠り所となっていたことが分かります」と。このお話を読んで、当時の人々の力の結集である、大変誇り高いものだとわかりました。

<参考>・政府広報オンライン「歓喜院聖天堂：精緻な彫刻と桜の寺院 April 2021」 https://www.gov-online.go.jp/eng/publicity/book/hlj/html/202104/202104_13_jp.html

・『熊谷市史』別編2妻沼聖天山の建築 P248 熊谷市 ・「斎藤氏と聖天堂」平成25年 熊谷市立熊谷図書館